

日の出町のあゆみ（3）

－文化編－

大久野地区の祭礼

町指定無形民俗文化財「玉の内の獅子舞」



日の出町
ののぢちゃん

獅子頭も一緒に
指定されているよ！

日の出町には、地域の人に大切に守られてきた伝統文化が今も数多く残り、毎年開催される祭礼にも、歴史と伝統が息づいています。今回は、町指定無形民俗文化財に指定されている大久野地区の「玉の内の獅子舞」を紹介します。

玉の内の獅子舞は、毎年8月の第2土曜日に、三嶋神社と集落内の2箇所を舞庭として奉納しています。玉の内の獅子舞は「風祭獅子舞」と公称しており、「雨乞獅子」や「悪魔除」とも呼ばれています。かつては雨乞のために奉納されていました。

玉の内の獅子舞は「三匹獅子舞」と呼ばれる形式で、頭に獅子頭を被りおなかに太鼓を括り付け、1人で1匹の獅子を演じ、3匹の獅子が同時に舞います。2匹の雄獅子は日神と雨神で、日神を務める雄獅子は「オオダイ」と呼ばれ棒状の角があり、雨神を務める雄獅子は「キリ」と呼ばれ捻れ角があるのが特徴で、2匹の雄獅子が雌獅子である雲神をめぐる物語を表しています。獅子舞は、神立、

付 獅子頭 三頭一組

獅子頭（文化7年銘） 三頭一組

じんきり ふとんばり はながかり しちどう たち がかり さお
神切、布団張、花掛、七道、太刀掛、竿
掛の7庭により構成されています。

獅子舞関係の古文書類は、明治15年（1882）の大久野焼けによる焼失で起源ははっきりとは伝わっていませんが、昭和22年（1947）に作成された「縁起書」によると、甲斐武田氏の落人が土着した際に神立と神切を伝え、その後、江戸時代末期に檜原村の出稼衆から、残りの5つの演目を習い加えたとされています。現在遺されている獅子頭は、文化7年（1810）と弘化4年（1847）と記された墨書が確認されています。また獅子舞の装束入箱の蓋裏書には「弘化三丙午年 大久野玉之内」と「文久二戌年九月吉日 玉之内」の墨書が確認されていることから、江戸時代後期には舞われていた可能性があります。

獅子舞や江戸時代の年号が記された獅子頭等は、大久野の大火を乗り越え現在まで伝わり、保存会ははじめ地域の方々によって次の世代へ受け継がれています。

次回は、平井地区の祭礼を紹介します。



今年の開催予定

令和6年8月10日（土） 正午 玉の内会館を出発し、三嶋神社へ向かいます。一般公開しておりますが、特段駐車場等の用意はしておりませんので、ご注意ください。

